

総務省における人工知能関連施策の 予算要求の状況について

平成28年9月
総務省

多様な経済分野でのビジネス創出に向けた『最先端AIデータテストベッド』の整備

平成28年度補正予算要求額 **22.0億円**

- 人工知能(AI)技術はあらゆる産業の競争力の源泉として我が国経済の将来を左右する極めて重要な技術であり、3省(総務省、文部科学省、経済産業省)連携の下で産学官の英知を結集し、AI技術の研究開発と社会実装を強力に推進することで、多様な分野でのビジネス創出を図る必要がある。
- そのためには、AIで処理し経済価値を創出するための高品質なデータの利活用が不可欠であることから、NICTが「多言語音声翻訳」「脳情報通信」等の研究開発を通じて蓄積してきた言語情報データ、脳情報モデル等について、NICTの実証ネットワーク(JGN)を通じて全国規模で利用可能とし研究開発と実証を加速する『最先端AIデータテストベッド』を構築する。

事業イメージ

NICTが蓄積してきたAI関連データ等

Web40億ページの
言語情報データ

高精細な脳情報モデル

収集・分析・
分類・構造化等

ビッグデータ・深層学習・脳科学のAI関連分野
ビッグデータ提供設備

『最先端AIデータテストベッド』

[NICTの研究設備も共同研究で利用可能]

産学官のオープンイノベーションによるAI技術開発と社会実装の強力な推進

- AIによる分析・解析の土台となる基本データベースの構築
- 基礎データ収集・提供システムの整備等

NICTの実証ネットワーク(JGN)経由
で全国規模(17箇所)で利用可能

研究成果の早期社会実装の推進

大学、ユーザ企業等

多様な経済分野でのビジネス創出、持続的な経済成長の実現

最先端AI頭脳の実現



人間の眼をはるかに
上回る空間映像認識



スマート工場



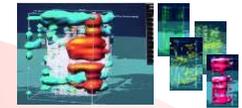
自動運転



農業・建設土木

開発・実証

大規模ソーシャルデータの統合解析



開発・実証

高齢者のアシストロボットの実現



医療・介護



物流



食品・薬品

次世代人工知能技術の研究開発

平成29年度概算要求額 12.0億円（新規）

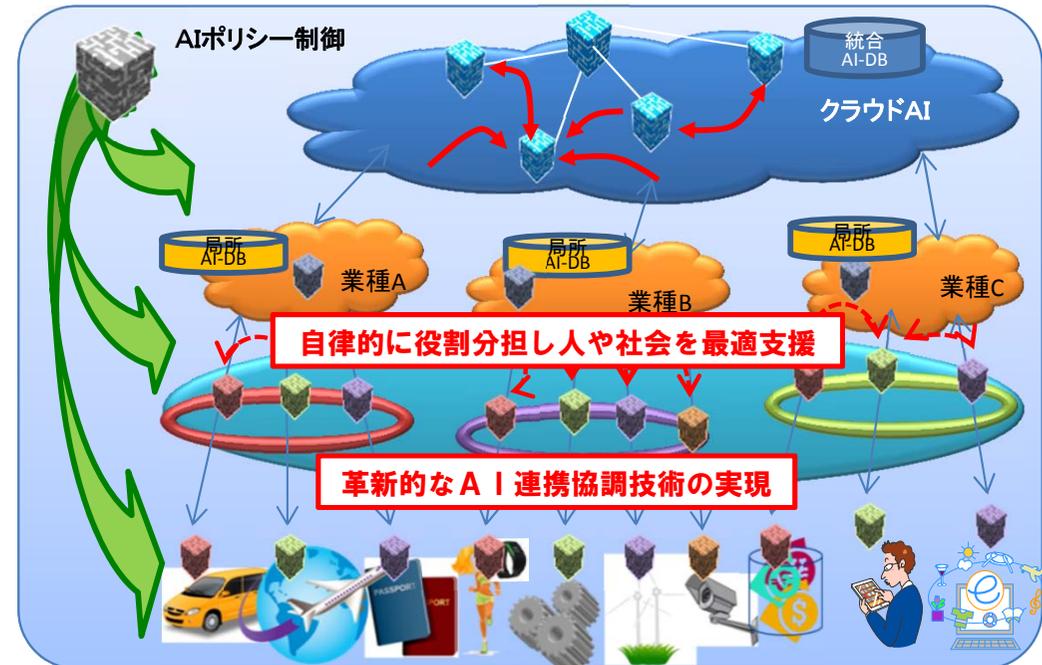
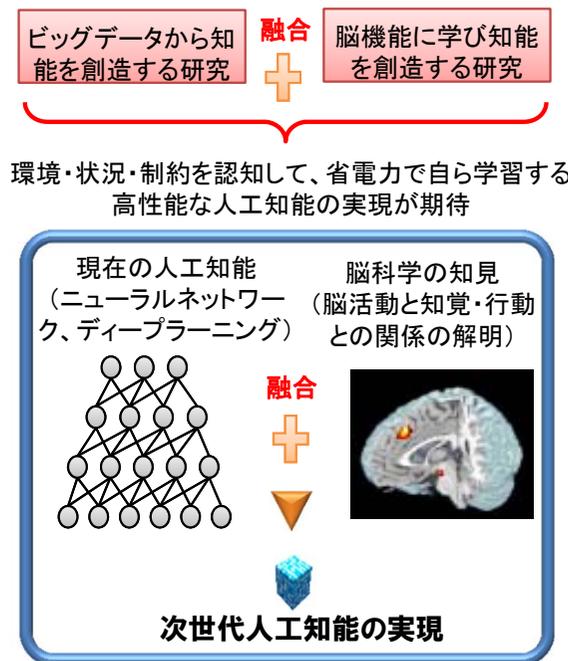
脳神経回路の演算メカニズムに倣い、少数データ、無作為データからリアルタイムに取捨選択し、複数の人工知能と連携することでダイナミックに自己成長すること等を可能とする次世代人工知能技術の実現に向けた研究開発を推進

【これまでの取組・現状】

- 総理指示により設置された「人工知能技術戦略会議」（H28年4月設置）が司令塔となり、3省連携（総務省・文科省・経産省）の下で産学官の英知を結集し、人工知能技術の研究開発・社会実装を推進
- 情報通信審議会の「次世代人工知能推進戦略」（第2次中間答申、H28年7月）を踏まえ、次世代人工知能技術の研究開発を推進

【目標・成果イメージ】

- 人の脳に倣う脳型認知人工知能の実装
 - 人工知能同士が連携し、自律的に役割分担し人や社会を最適に支援することができる革新的な連携協調技術を実現
- ↓
- 学習データの準備が比較的困難な分野等での人工知能の利活用促進
 - 人工知能同士の連携による生産性の最大化、新たな価値創出の実現



「IoT/BD/AI情報通信プラットフォーム」社会実装推進事業

平成29年度概算要求額 12.0億円（新規）

最先端のAI基盤技術を様々な産業分野に早急に展開し、データ収集とAI解析により価値創出を図るため、産学官のオープンイノベーションによる先進的利活用モデルの開発や国際標準化を推進し、新たな価値創出基盤となる「IoT/BD/AI情報通信プラットフォーム」の構築と社会実装を推進する。

【これまでの取組・現状】

- IoT/ビッグデータ（BD）/人工知能（AI）により産業構造変革を迫る「第4次産業革命」が急速に進行。欧米は産学官をあげ取組を加速。我が国は3省連携で推進。
- 国際競争力確保のため、IoTで収集したデータをAIで解析することで新たな価値創出を図る基盤となる「IoT/BD/AI情報通信プラットフォーム」構築が急務。

【目標・成果イメージ】

- 様々な産業分野に応じた先進的な利活用モデルを構築、国際標準を獲得するとともに、「IoT/BD/AI情報通信プラットフォーム」の構築と社会実装を行う。
- 多様な分野で人間と自在な対話が可能な次世代サービス等のAI技術を活用した新たなサービスが実現。

- ・ 「IoT/BD/AI情報通信プラットフォーム」を通じた様々な分野におけるデータ収集とAIによる解析により新たな価値を創出することが我が国の国際競争力確保にとって決定的に重要
- ・ 音声処理、自然言語処理等のAI基盤技術をもとに、多様な分野で人間と自在な対話が可能な次世代サービス等を実現



※API: 利用者がシステムを利用するための情報のやりとりに係るインターフェース